

プレルティングによるオリエンタル系ゆりの品質向上技術 (カサブランカ、ルレーブ、シーウィンドの好適処理条件)

抑制栽培において「葉焼け」などの生理障害が問題となるシ - ウインドは、プレル - ティング処理により生理障害の発生を大幅に低下させることが可能である。また、抑制栽培では落蕾や葉焼けの発生、切り花長不足が問題となるルレーブや、葉焼けが発生しにくいカサブランカにおいても、プレル - ティング処理により草丈が増加し、品質が向上する。

表1 品種別好適処理温度、処理期間

品種名	処理温度 ()	処理期間 (週)	葉焼け量	切り花長 (cm)	出荷率 (%)
カサブランカ	10	3~4	無し	88.9~90.8	92.4~96.2
	12	3	無し	91.2	95.3
	15	3	無し	95.2	95.3
	無処理		極少	81.8	93.2
ルレーブ	12	4	中	66.3	76.7
	15	3	少	63.6	77.7
	無処理		極多	52	13.3
シ - ウインド	12	3	極少	103.4	86.7
	15	3	少	109.8	79.3
	無処理		極多	88.8	0

好適なプレル - ティング条件で処理を行うことにより、3品種とも品質が向上し、出荷率が増加する。

ルレーブの場合、無処理区と比較して葉焼けや奇形花の発生が減少し、最適条件下で処理した場合は出荷率が60%以上増加する。

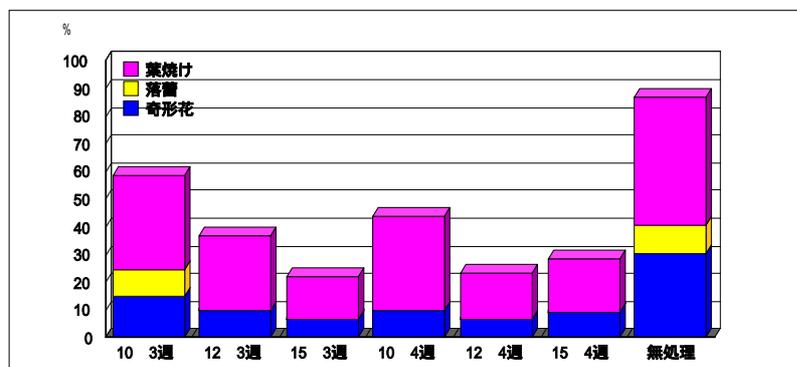


図1 ルレーブにおける処理温度、処理期間別出荷不能割合

通常の抑制栽培では葉焼けの発生が激しく出荷が困難なシ - ウインドの場合、処理により葉焼けの発生が大幅に減少して品質が向上し、出荷率が飛躍的に増加する。

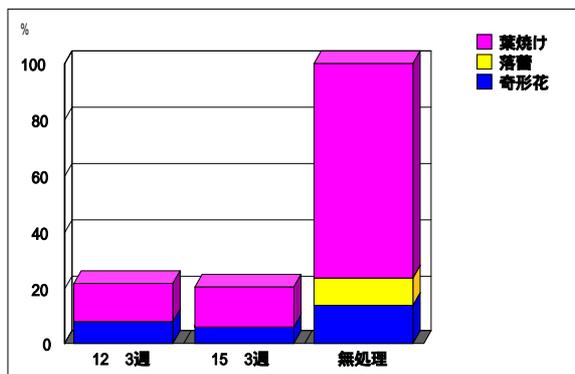


図2 シーウィンドにおける処理温度、処理期間別出荷不能割合